

1963年 5月 2日	小銃弾が恩納小学校の路上に落下
1963年 5月 23日	機銃弾が喜瀬武原小中学校に落下
1965年 5月 12日	砲弾が安富祖の北方の原野に落下
1965年 11月 10日	機銃弾が安富祖の民家の窓をぶちぬき、その後別の機銃弾が民家の茶ダンスをぶちぬく
1966年 10月 27日	戦車砲により民家のブロック塀が破損
1967年 8月 11日	戦車から発射された砲弾が空中で爆発し、金武村字金武、恩納村喜瀬武原の民家の屋根にその破片が落下
1987年 10月 27日	瀬良垣の国道58号をタクシーが走行中、機銃の弾丸が右側面を貫通

調査ができるようにすることなどの意見書を村議会から提案しました。一方で事件の解明へむけ米軍側に米軍が回収した銃弾の提供などを求めたものの、実現しませんでした。2017年12月19日、日米両政府、関係機関に抗議、意見書を提出しましたが、抜本的な改善点は示されていません。現行の日米地位協定、刑事特別法は米軍提供区域内での射撃訓練が被弾の原因だった場合、第一次裁判権は米側にあり、米軍財産に対する捜索や差し押さえなどには米軍の同意を要することになっています。結果、被疑者不詳で書類送検され、全容解明には至りませんでした。

安富祖の事件から一年あまり経った今年6月名



この100m奥で流弾が発見された（安富祖）



県道104号線側から撮影した演習場

護市数久田においても流弾事件が発生しました。米軍からのものかどうかは確定できないものの、事件から4ヶ月近くがたちますが、事件の解明には程遠い状況といえます。

（二度と事件を起させないために）

「ぼくの学校は 平和世っていいえる？」

バンバンとえんしゅう・たまの音だ」

平和学習の一貫である「平和の琉歌」作りの中で、毎日銃声を聞きながら学校生活を送る児童が思いをこめた琉歌です。静かな環境の中で学習環境をつくり、安心して暮らせるよう、引続き、米軍に事件の徹底究明と再発防止の根本的具體策を強く求め、村民一人ひとりが関心を持ち、生命の安全生活を脅かす問題に向き合うことが求められます。

（瀬戸隆博）

（参考文献）

- 恩納村公式ホームページ
- 當山幸徳「山肥えて海光る おんなの美しさは自然がもつとも良い」2000年
- 字恩納自治会「恩納字誌 山・海・大地 古からの恵み」2007年
- 字恩納自治会「写真集 道 写真で見る恩納区のあゆみ」2003年
- 沖縄県知事公室基地対策課「沖縄の米軍及び自衛隊基地（統計資料集）平成29年3月」2017年
- 特殊部隊訓練場建設及び実弾射撃演習反対・恩納村実行委員会「命身にかきて米軍演習許ちならんむらを守る恩納村民の闘い」1990年
- 刑特法被告を支える市民の会編「沖縄は訴えるキセンバルの火」1978年
- 議会だより132号（2017年5月）
- 135号（2018年2月）